４つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小手澤の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森
小原本陣の森
不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.586-587
新１年生も順調に間伐をこなしています

【定例活動報告】小原の畑

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

野菜栽培は土が基本。自然界でも森で１センチの表土が出来上がるのに百年歳月がかかります、家庭でプランターに腐葉土や赤玉土と肥料をいれトマトの苗を移植して赤くなると収穫し食べおえると土は残土として捨ててしまいます。

野菜の根と土の関係は作物に根を張らせ、作物の茎を保持すると共に水や養分を供給する機能があり団粒構造になると内部には非常に小さなすき間ができ保水力、排水性、通気性に優れた土ができます。トマトは南米ペルーの高原地帯のナス科植物で１６世紀スペイン人によってヨーロッパに伝わ

り品種改良が行われ、明治時代に日本に食用トマトとしてはいってきました。トマトはカロテン、ビタミンc、クエン酸やリンゴ酸などが豊富で赤色のもとになるリコピンは活性酸素を除去する働きもあります。

4月下旬ホームセンターで接ぎ木で節間の詰まった、どっしりしたもの、葉が左右均等で葉が波打ったり、日焼けしていないもの、白い根が張っている丈夫なトマト苗を選び購入、１番花が咲く頃畑に定植します。雨水の跳ね返りを防ぐためにマルチをして、トマトは根と茎及び葉から水分を吸収する為、高さ２ｍトンネル支柱をたてビニールで覆いして雨を防ぐ対策します。

定植して2週間程で側枝が伸びてきますので芽かきと誘引しますが芽かきは手で折り取り外して行きます、誘引は支柱と茎の間に8の字を作り、ゆとりをもたせる。ナス科には春先のジャガイモからナスそしてトマトまでテントウムシダマシが葉裏に卵を産み付けて幼虫から成虫まで葉を食いつくし網目状になり枯らしてしまう、人が近ずくと虫は落ちて捕獲出来ませんのでバケツに水を入れて上から叩き駆除します。草取りも頻繁にしないと虫の棲み処になります。又、側枝が発生し放任するとトマトの実が見えないほど繁茂した株になりました。トマトの房は側枝２本置きになるので6段程で頭を止めて横に伸ばします。農作業とは自然界との戦いで美味しい果実を提供している仕事です。

石井　明男（本会、会員）

【定例活動報告】知足の森

今回の活動で私を含む6名の人が新たに参加することになりました。長福寺というお寺の後ろにある林の中で木を切りました。木を切り始める前に森の神様と呼ばれる木に礼をしました。先輩たちの話によると切り始める前に必ず礼をしないと怪我をする可能性があるとのことです。全員合わせて16人いたので2グループに分かれて木を切り始めました。私は話を聞き、手段は簡単そうでしたが、実際は木を切るのには多くの時間がかかり疲れました。私たちの班で切れた木は2本でした。他の木にひっかかるとロープで木をつなぎ引っ張る必要があります。特に最後の一本は、中々引っ張っても倒れてくれず30分ほどはロープを引っ張っていました。昼食を食べた後、違う斜面で間引きをするために、少し山を登り5～6本ほどの木を1人で担当し切りました。しかし切ったのはいいものの、その後木をまとめておくという作業がかなり大変でした。やりっぱなしでは良くないという考えで頑張ってまとめました。これからもこの活動に取り組んでいきたいです。

崔　鎮圭（GTE LAB　中学１男子）

今回、初めて参加し、計２０人ほどの人数で活動しました。午前中は、お寺の後ろにある林の木を切りました。木を切るのはとても大変そうだと思っていましたが、意外と急斜面を登る方が大変でした。木をのこぎりで切るのは初めての体験でしたが、先輩や宮村先生がアドバイスしてくれたおかげで、怪我無く切ることができました。テレビで木の切り方が放送されていたのを見たことがあったので、木の切り方はなんとなく理解できましたが、木を実際に切るのはとても力が必要で大変でした。しかし、そのあとに飲んだお茶はとてもおいしく気持ち良かったです。

午後からは、場所を移動して竹を切りに行きました。竹は木に比べて細いので、簡単に切ることができましたが枝が色々なところに引っ掛かり下におろしたり枝を切ったりする作業は、とても大変でした。その作業を行っているときにハチに刺されていた人がいたので、これからはハチなどの様々な害のある虫に気を付けて作業しようと改めて思いました。今回学んだことをいかして、自分の身は自分で守り、楽しく安全に活動していきたいです。

小林　健晟（GTE LAB　中学１男子）

桜井尚武の森のコラム

「ナワシロイチゴ (*Rubus parvifolius*)」

図1　ナワシロイチゴ

20220619　与瀬相模湖

図2　ナワシロイチ

20220619　与瀬相模湖

図3　雄蕊を出した全開の花

20230530　つくば

図4　蕾様器官の萼を剥がしてみた

20230530　つくば

図5　成熟した果実

20220717与瀬相模湖

バラ科キイチゴ属の落葉低木、50cmくらいの高さになりますが直立するというより水平に走出枝（匍匐枝、ランナーともいう）という枝を伸ばして蔓植物のように周囲を覆います。幹や枝全体にかぎ状の棘があります。日本全土、千島、朝鮮、中国、ベトナムの低地から山地に普通に生えますが、道端や農地の畔、空地などにもよく見られます。3出、時に5出の鋸歯のある小葉を持つ複葉を互生します。葉脈が凹むのでしわの多い葉面に見えます。走出枝の着地した部分から発根して新しい株を作るので、繁茂が旺盛に見えます（図-1）。花は5～7月頃に枝先に淡桃色、時に比較的濃い紫色の5弁花を最初は雌蘂（めしべ）を花弁の外側に出して雄蕊（おしべ）を包み込むように開き（図-2）、遅れて花弁を全開して雄蕊を表に出すようになります（図-3）。この花の時期が田植え時と重なるのでこの名がついたのでしょう。

花が全開したあとにできる蕾様の器官が目に付きます。この蕾様の器官の萼を剥がしてみました（図-4）。中には未熟なキイチゴの実が詰まっていました。つまり、受粉を終えた後赤いイチゴに熟すまでの間、幼いイチゴの実を守るために再び萼を閉じていたのでした。こんなナワシロイチゴを観察して、雌蘂の成熟と雄蘂の成熟時期に差があり、先に成熟する雌蘂を先ず受粉のために外へ出し、受粉後に雄蘂を外に出すことで自家受粉を防いでいるのではないかと考える人がいました。正否は解りませんが最もらしい考えだと思います。さらに実を確実に成熟させるために萼で再び包んでしまうとは、自然の仕組みに感心しました。その結果成熟したイチゴの実が図-5のようになりました。このイチゴは甘酸っぱい味で生食しても中々美味しいですし、ジャムなど加工品にも向くと好評です。

（桜井尚武　本会会員）

【活動報告】

ShopBot Desktop MAXを使った活動

本会も協力したクラファンで購入しましたShopBotというCNCルーターを使った制作の報告をしたいと思います。附属学校では約500mm程度四方のロッカーが一人一人に割り当てられています。しかし、そこに教科書に加え、通学バックを入れると、体育着やシューズの類はとても入らず、空いているロッカーが共通のシューズ入れになります。しかし、ただの枠では１０人弱のシューズがズルズルと落ちてきて、あっちの教室でもこっちの教室でも床にシューズが散乱することがよく起こっております。そこで、ロッカー内什器、彼らがいう「ジャストフィット」という仕切りを作成しました。３年生がデータの作成と試作品（完成までに５セットは作っていました、、、）、１年生が大量生産を担当し、この度１クラス分だけですが納品しました。納品にもあれやこれやありましたが、使用しているクラスの生徒からは大絶賛、これでロッカーが片付かないと怒られることもないということです。（写真は同校のインスタグラムのものです。）

宮村　連理（本会、副理事長）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

緑の募金　一般財団法人 セブン-イレブン 記念財団　SEKISUI HOUSE MATCHING PROGRAM　patagonia